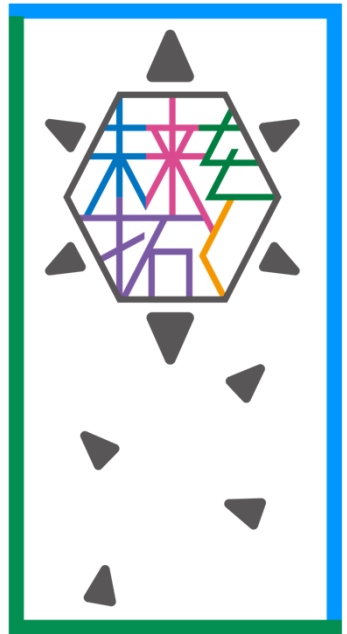




1年生入学おめでとう集会 なかよし班で自己紹介



4月号
令和6年4月19日
児童数 410名
新潟市立亀田小学校
学校だより



アップデートしなきゃ ダメですか？

校長 渋谷 徹

生徒は一人一人違うんすよ。どっかで聞いた精神論に当てはめて、それで終わりでいいの？あの子たちが、三〇年、四〇年後の未来を創るんだよ。ちやんとやろうよ！

毎週楽しみに見ていたテレビドラマ『不適切にもほどがある』が、先月二十九日に最終回を迎えた。右のタイトルは同ドラマ最終回の副題である。

昭和の体育教師、小川市郎はタイムマシンで令和と昭和を往復しながら、その価値観を揺さぶられていく。同時に、視聴者である私たちもまた、価値観のギャップに爆笑しながらも、自分自身の価値観について「本当にこれでよいのか？」と思わず考え込んでしまう。

冒頭枠内の言葉は、最終回で令和から昭和に戻ってきた小川市郎が校長代理に噛みついたときのセリフである。

タイムマシンで、未来の社会を実際に見てきたからこそ、小川市郎は眼の前で展開されている昭和の教育に大きな違和感と危機感を感じたのだ。

ドラマとは違い、現実世界の私たちは、残念ながらタイムマシンを持つてはいない。だから、小川市郎のように未来の社会を力にすることはできない。しかし、子供たちが社会に出た時に必要とされる力に思いを馳せ、亀田小学校の教育を変えていくことはできるはずだ。これは「未来を拓く」を教育目標に掲げている亀小職員と保護者の皆さんとの共同ミッションである。脳内の仮想タイムマシンに乗って未来を見に行くのである。

三〇年、四〇年後の社会で求められる力とは何なのか。そして、それを子供たちに育てるために学校教育、家庭教育をどうアップデートしていくべきなのか。来週二十六日の学習参観日の折、保護者の皆さんに提案をし、共に子供たちの未来を考えたいと思う。当日は、多くの保護者の皆さんのご参加をお待ちしています。一緒にタイムマシンに乗ります。